



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより No.12
校長 芹澤 敏光
令和 7年3月24日

式 辞

校長 芹澤 敏光

桜のつばみも開花間近の膨らみを見せ、春の息吹を感じるようになりました。本日は、府中市教育委員会委員 日野 佳昭 様、府中市市長部局 総務管理部財産活用課長補佐 稲葉 康太 様をはじめ、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもとに、第45回卒業式が挙行できますことをとても嬉しく思っています。心より感謝とお礼を申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんにとって中学校生活3年間は、コロナ禍の影響がまだ残る中、マスク姿でのスタートでした。学校行事は予定通り実施できるようになっていきましたが、まだ「思う存分」とはいかないこともありました。その後、社会生活、学校生活が通常に戻っていましたが、それまでの卒業生のみなさんの頑張りには本当に頭の下がる思いがします。

今日の卒業の節目、義務教育終了にあたり、これまで積み重ねてきた努力をじっくりと振り返ってみてください。喜びや感動、そして、辛抱することもあった中で誰もが感じた不安や悩み、悲しさ、悔しさなど、全ての思いをみなさんと共有し、今までみなさんを支え、大切に育ててくださった保護者の方に感謝の気持ちを、心を込めて言葉で伝えてください。

先日の音楽祭では、慣れない初めての会場での実施でしたが、みなさんの立派な態度が、3年間の中学校生活を象徴していました。「上級生の姿を見て、下級生が育つ」という、本校の伝統を見事に受け継いでくれたと感じています。

3年生の学年合唱の「河口」では、フィナーレをこんなにはっきり予想して、川は大きくなる。フィナーレを華やかに飾りながら、川は大きくなる。と見事に歌い上げていました。川の流れが河口に向かって大きく成長していくように、皆さんひとりひとり、中学校生活3年間での成長を胸に秘めながら、今日、大海原へ旅立つときが来ました。さて、今後のみなさんの人生が、心豊かで充実し、輝かしいものとなることを願い、三つのことをお話ししたいと思います。

一つ目は、努力と誠実さ、正義を大切にしてほしいということです。これは本校が目指す生徒像の最初に掲げていることでもあります。古来、「千里の道も一歩から」・「ローマは一日にしてならず」など、大きな目標に向かって、小さな努力の積み重ねを重要視する言葉は様々な形で言い伝えられています。

昨年、日本国内での新紙幣の発行に際して、一万円札の肖像画に、「日本資本主義の父」「実業界の父」「金融の父」と呼ばれる渋沢栄一氏が採用されました。彼は、生涯に約480もの企業の設立・運営に携わりました。また、企業経営だけでなく、約600の社会事業にも携わり、幅広い分野でも活躍しました。その渋沢栄一氏も、「誠実に努力する人に、運命は開ける」と述べています。

また、日本とアメリカのプロ野球界で数々の偉業を成し遂げ、過日、日本とアメリカ双方での野球殿堂入りを果たしたイチローさんも、「小さなことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただ一つの道だと思っています」と語っています。

このような言葉に接するたびに、人間を心身ともに強くするのに、ひたむきな努力や物

事に誠実に取り組むことに勝るものはないと痛感します。みなさんも今後、時には失敗をしたり、心が折れそうになったりすることがたくさんあると思います。しかし大切なのはそこで歩みを止めないことです。たとえゆっくりでもいいから前に進み続けることです。そうすれば新たな工夫が生まれたり、別の道が開けたりします。前進あるのみです。

一方、ひとたび国際社会へ目を向けると、戦争や紛争が後を絶たず、おびただしい数の尊い人命が失われ続け、正義ということが都合のいいように解釈されているくらいがあります。そして、AI・人工知能などの科学技術の進歩によって、様々な価値観が悪意をもって偏った方向に誘導されてしまう危険性も急速に増大しています。そのような状況で、一人一人が確固たる信念に基づいた人としての行い、正義を心に刻み付けながら行動することの必要性が非常に増しています。真実を見極める目を養いながら、自分の身の回りから、広く世の中の動きまで注視しながら行動する姿勢を大切にしてください。

二つ目は人とのつながり、出会いを大切にしてほしいということです。一期一会という言葉もあります。一生に一度きりの機会、出会いを大切にせよ、ということです。これから皆さんは、様々な出会いと別れが繰り返されていきます。「ある人と出会ったことで人生が変わった」ということもあります。今の皆さんは柔軟な感性で日々を過ごすことができます。その時期に自分とは異なる境遇の人との出会いは、皆さん自身の人生に新しい価値観や考え方をもたらしてくれます。また皆さん自身の中に隠れているものが引き出される機会ともなります。そしていろいろな出会いを通して、人と人との絆、人はいろいろな人に支えられ助け合っていることも学んでください。出会いは必然です。出会った後にどうするかは皆さん次第です。

三つめは常に謙虚な姿勢を大切にしてほしいということです。実るほど頭を垂れる稲穂かなという言葉があります。現在のパナソニックの創業者であり、経営の神様ともうたわれた松下幸之助さんを始め、多くの著名人が座右の銘としていることで、取り上げられることも多いものです。改めてこの言葉をかみしめると、実れば実るほど、まるで有難うとお辞儀をするかのように稲穂が垂れ下がる様子が目に浮かびます。

頑張って身につけた知識、学問、教養などが本当に深まり、身につけてくると、おのずと人間性が向上したり、人格が形成されたり、周囲に対しても「お陰様で」と謙虚になり、思いやりの心を持って接することができるようになります。

私達は皆、この世に生を受けるときには、言葉も何も知らない純粋な心で生まれてきます。そして、親から、友達から、学校の先生方から、自然から、いろいろなことを吸収し学んで成長していきます。ところが、いつのまにか「学ぶ心」を忘れ、時に傲慢になり、人の未熟さをあげつらうようになってしまうこともあります。謙虚な姿勢でいればいるほど、それだけ広くたくさんのことを学ぶことになり、心に栄養を与えることが出来ます。最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。これからお子様のよさや可能性を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。この3年間、ご支援、ご協力をいただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

本日の全校合唱曲であり、創立30周年を記念して作られた、本校の愛唱歌「新しい朝」に、「この場所で出会えたこと かけがえのない毎日は いつか旅立つ日が来ても 消えることはないから」という歌詞があります。今まさに、その言葉そのままに、旅立ちの時が来ました。本日卒業する131名のみなさんの今後のさらなる心豊かな成長を通して、一人一人の人生が実り多きものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和7年3月19日

府中市立府中第十中学校

校長

芹澤 敏光